

政治・経済・社会の反映として文化をとらえさせる歴史授業の開発

教育実践高度化専攻
授業実践リーダーコース
学籍番号： P11027C
氏名： 柴田 剛気

1 問題の所在

平成 20 年版中学校学習指導要領〔社会〕では、「日本人の生活や生活に根ざした文化については、政治の動き、社会の動き、各地域の地理的条件、身近な地域の歴史とも関連付けて指導」することが強調されている。このことは、社会認識の形成を目指す社会科授業において、文化の学習が政治や社会の動きと関連付けて行われることの重要性を指摘している。また、「各時代の文化については、代表的な事例を取り上げてその特色を考えるようにすること」とも述べられている。さらに、中学校学習指導要領解説【社会編】では、「歴史的分野の学習が重視する各時代の特色の理解を、文化の面について図ろうとするものである。」と述べている。つまり、文化についても、時代の特色を理解させる必要があるということである。時代の特色は、政治と文化を分けて考えるのではなく、それらの関連を理解することで、文化を関連付けた時代の特色の理解が可能となる。これまでは、政治・経済・社会と文化を関連付けて時代の特色をとらえる授業はほとんど行われていなかった。しかし、それでは子どもは文化を関連付けた時代の特色の理解ができない。そこで、子どもに文化を政治・経済・社会の反映であるにとらえさせれば、各時代において政治・経済・社会と文化を関連付けて時代の特色を理解させることができるかと考えた。

2 研究の目的

本研究では文化がどのように政治・経済・社会の反映を受けているのかを明らかにし、そこで明らかになったことを授業に組み込むことによって子どもに時代の特色を理解させるために政治・経済・社会の反映として文化をとらえさせる授業を開発することを目的とする。

3 研究の仮説

本研究は、次の研究仮説をもとに研究を進めることとする。

「なぜ、その文化がその時代におこったのか」について探究させ、文化がどのような政治・経済・社会の反映であるかを理解させることで、子どもは政治・経済・社会と文化を関連づけて時代の特色を理解することができるだろう。

4 研究の方法

研究の目的を達成するために、次のような方法で研究を進める。

- (1) 文化がどのように教えられることが求められているのかを明らかにする。
- (2) 文化を政治・経済・社会の反映としてとらえる意義を明らかにする。
- (3) 現在行われている文化の学習の課題を明らかにし、授業設計の視点を定める。
- (4) (1)～(3)の成果と、教育実践開発プロジェクト実習、改善実習における授業実践をもとに、授業モデルの改善、開発を行う。

5 研究の概要

(1) 本研究における文化

研究を進めるにあたり、本研究における文化の定義を行った。そこで、文化人類学と歴史学における文化の定義を整理し、歴史学と社会科教育学における文化史のとらえ方についても整理した。さらに、学習指導要領における文化の取り扱いも整理した上で、本研究における文化を次のように定義した。

- | |
|---|
| <p>○文化現象としては宗教・思想・学問・美術（絵画・彫刻・工芸・建築・庭園）・文芸・演劇舞踊・音楽が含まれる。</p> <p>○文化は政治・経済・社会の反映である。</p> |
|---|

以上の定義をふまえて、各時代の文化がどのような政治・経済・社会の反映を受けているのかを明らかにし、授業を構想する。

(2) 政治・経済・社会の反映として文化をとらえる意義

政治・経済・社会の反映として文化をとらえることで、歴史授業にもたらす意義は、次の2点である。

- 1 作者や作品の暗記をするだけといった、事項の暗記中心の学習から、原因と結果の関係について探究を行う学習となるため、文化を「わかる」ようになる。
- 2 学習対象とする時代の政治・経済・社会の動きと文化を関連付けて学習が行われるため、時代の特色を理解することができる。

(3) 文化の学習の分析

中学校社会科歴史的分野では文化がどのように扱われているのかを明らかにするため、教科書・高校入試問題・先行実践の分析を行った。教科書や高校入試問題は、文化を政治・経済・社会の反映としてとらえるようなものではなく、羅列的に扱われていた。先行実践では、文化を政治・経済・社会の反映としてとらえさせることで時代の特色を理解させるようなものはなかった。文化を羅列的に扱うのではなく、政治・経済・社会との関連をとらえさせながら、その時代がどのような時代であったのか、という時代の特色を理解させるような授業の開発を行う必要がある。

(4) 授業実践

以上の分析をふまえた上で、室町文化を政治・経済・社会の反映としてとらえさせる授業を開発し、実践した。民衆文化の高まりを中核として室町文化をとらえさせるよう、授業を構成した。鎌倉時代までの文化では、文化の担い手が貴族や武士、僧であった。これは、仏教中心の文化であったこと、時代の支配者層が主に文化を享受していたということである。彼らは経済的にも豊かであったことから文化を享受できていたと言い換えることもできる。しかし、室町時代になると民衆が中心となった文化が華を開かせる。その背景には、民衆の経済的な成

長が起っていたこと、民衆同士の集団の結びつきが強まったことがある。つまり、経済の面における民衆の成長が文化に反映しているのである。このことをとらえさせるために、主発問「なぜ、室町時代には民衆の文化が高まりを見せたのだろうか」を探究させる授業過程をとった。また、「下剋上」の概念が政治だけでなく文化の面でも起っていたことを認識させ、室町時代の時代の特色として下剋上の時代であったことを理解させようとした。この授業を行った結果、子どもは政治・経済・社会と文化との関連をとらえることができた。

(5) 授業改善及び、新たな授業モデルの開発

実習を行った室町文化の授業の課題を明らかにし、改善を行った。また、鎌倉文化、桃山文化、元禄文化、化政文化の授業モデルを開発した。

6 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

研究の成果は、次の3点である。

- ④ 社会科において、文化がどのように教えられていることが求められているのかを明らかにすることができた。
- ⑤ 現在の社会科における文化の学習の問題点を明らかにすることができた。
- ⑥ 政治・経済・社会の反映として文化をとらえさせる授業モデルを開発し、実践を行い、実践から明らかになった課題をもとに、授業モデルの改善及び新たな授業モデルの開発を行うことができた。

(2) 研究の課題

研究の課題は次の2点である。

- ① 時代の特色を理解し、歴史の流れを大観させるためにも、開発した授業モデルだけでなく、さらに新たな授業モデルの開発を行っていく。
- ② 開発した授業モデルをもとに実践を行い、新たな課題を発見し、その改善を図る。

修学指導教員 佐藤 真
伊藤 博之
指導教員 米田 豊